

2月～3月に子どもが参加できる各種講座

講座名	日時・申し込み等	中学生	問い合わせ
にちようおはなし会	毎週日曜日 14時30分～		中央図書館 TEL.222-0559
春のおはなし会	3月26日 15時～		
どようおはなし会	毎週土曜日 15時～		西図書館 TEL.237-5660
にちようおはようおはなし会	毎週日曜日 11時～11時30分		川越駅東口図書館 TEL.228-7712
どようおはなし会	毎週土曜日 14時30分～		高階図書館 TEL.238-7550
ふゆのどようスペシャルおはなし会	2月7日 14時30分～		
子ども体験教室 「昔の道具を使ってみよう」	2月14日・21日 ①10時～12時 ②13時30分～15時30分 当日先着順	○	博物館 TEL.222-5399 FAX.222-5396
子ども博物館教室 「昔の織物に挑戦」	3月7日 10時～15時30分 申し込み=2月3日、9時から電話またはファクス	○	
子ども体験教室 「和紙作りに挑戦」	3月14日 ①10時～12時 ②13時30分～15時30分 申し込み=3月1日、9時から電話またはファクス	○	
子ども体験教室 「わら細工に挑戦」	3月21日 ①10時～12時 ②13時30分～15時30分 申し込み=3月3日、9時から電話またはファクス	○	
おひな様を折り紙で作ろう!	2月21日 9時30分～11時45分 申し込み=2月12日までに 往復ハガキ、ファクスまたは市HPより電子申請(定員30人)		中央公民館 TEL.222-1394 FAX.226-2006
子ども卓球広場	2月7日、3月7日 13時30分～15時30分		高階南公民館 TEL.245-3581
子ども囲碁将棋広場	2月21日、3月28日 9時～11時	○	
土曜子ども映画会	3月14日 10時～		
人形劇フェスティバル	3月15日 10時～11時 当日先着100人(幼児～小学校低学年まで)		
おもしろ実験室 「望遠鏡を作ろう」	2月14日 9時30分～11時30分 申し込み=2月3日、9時から電話またはファクス(定員25人)		大東公民館 TEL.243-0022 FAX.240-1754
石と森の夢工房	2月14日 10時～11時30分 申し込み=電話またはファクス(定員30人)		大東南公民館 TEL.242-0498 FAX.240-1755
春休み子ども映画会	3月26日・27日 10時30分～12時		
親子理科工作教室 (電子楽器を作って電気を学ぶ)	3月31日 10時～12時 申し込み=3月3日、9時から来館		霞ヶ関公民館 TEL.231-1009
第36回川越市ジュニアスキー教室	3月20日20時発～22日19時着 会場=菅平高原スキー場 対象=小4～中学生(定員80人)申し込み=2月13日消印有効でハガキ	○	スポーツ振興課 TEL.224-6094
ジュニアアートスクエア	2月28日、3月21日 10時～12時 申し込み=各月1日、9時から電話またはファクス(定員各回20人)	○	美術館 TEL.228-8080 FAX.228-7870

※日時・申し込み方法等は、変更になる場合があります。詳細につきましては、お手数ですが各施設へお尋ねください。

※ の教室は、事前に申し込みが必要です(他は当日直接参加)。また、特に記載がない場合、会場は問い合わせ先の施設です。

※「中学生」の欄に○がついている講座は、中学生にもお勧めの講座です。

平成26年度 子どもサポート発表会・「小江戸見つけ隊」展示会を開催します!

○子どもサポート発表会

子どもたちのために、学校・家庭・地域が連携して取り組む「川越・地域子どもサポート事業」。よりよい活動を目指し、それぞれの取組が紹介されます。

◆日時：平成27年2月14日(土) 午前9時20分～午前11時30分

◆会場：やまぶき会館

◆内容：今年度の活動発表(川鶴地区、高階地区、南古谷地区、中央地区)及び他の10地区の活動をスライドで紹介
子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」金賞受賞者の発表・表彰、講評
入賞者の作品をロビーに展示



ご来場をお待ちしています。

ときも

○子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」展示会

子どもサポート発表会で表彰された作品をはじめ、作文・絵画・新聞の全作品を展示します。

◆日時：平成27年2月18日(水)～22日(日) 午前9時～午後5時(最終日は午後3時まで)

◆会場：美術館市民ギャラリー(入場無料)

詳しくは、地域教育支援課(Tel.224-6086)までお問い合わせください。



昨年度の展示会の様子

し たく 知っ得

知って ちゃんと 得意になれる!

ぶん か ざい 文化財

だい かい 第29回 「文化財の修理 その②」

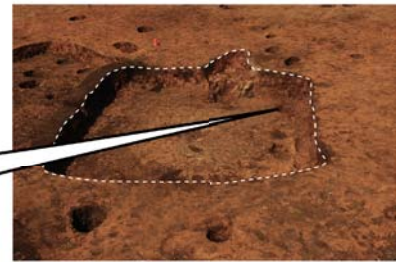
しゆつ ど きん ぞく き ほ ぞん しゆり ~出土した金属器の保存処理~

い せき はくつ げん ば ど き せつき き 遺跡発掘の現場では、土器や石器のほかに、木や金属でできた道具が出土することもあります。普通は、長く地中に埋まっている間に、腐ったりさびたりしてしまっ無くなってしまふものなので、とても貴重な発見です。しかし多くの場合、古い木や金属はボロボロになってしまっていて、今にも壊れてしまひそうです。こうした傷んでしまった文化財を、後世に残すためには一手間かけなければなりません。今回は文化財の修理その②として、金属製品の修理(保存処理)についてご紹介します。

おととし なつ べんてんにし い せき せん ばまち 一昨年の夏、弁天西遺跡(仙波町)で発見されたおよそ1,200年前の竪穴住居跡から、鉄製の刀子(小さいナイフ)が出土しました。当時、刀子は、今でいう消しゴムの役割を担っていました。この頃の紙は、まだとても貴重なものだったので、役所の役人たちは木簡(短冊状にした細長い木の板)に字を書いて、仕事をしていました。そして、書き誤った時は、刀子で木簡の表面を削り取って、間違った字を消していたのです。



ゆかした 床下から出土した刀子



弁天西遺跡第19次調査の住居跡

しかし、この出土した刀子を実際に取り上げてみると全体的にさびがひどく、先も折れていました。これは何とかしなければいけません!



保存処理前の刀子

けて元の形に復元します。

その結果、元通りのピカピカ!!...とまではいきませんが、さびは無くなり、折れていた先端もくっついて、あらかた元の形に戻ります。これでひとまずは、朽ちて無くなることはありません。

しかし、温度や湿度に気を付けて適切に管理しないと再びさびてしまいます。文化財の保存には、良好な保存環境を保つための努力が何よりも大切なのです。

金属の保存処理は専門的な知識と技術が必要なので、専門の技術者に依頼します。グラインダー(円板形の砥石を回転させて、工作物の表面を研磨したり、削ったりする工作機械)やブラシで慎重にさびを落とし、さびの原因となる塩分を除いた後、アクリル樹脂に浸して表面をコーティングします。また、折れたり割れたりしているものは、くっ



保存処理後の刀子